

1. 課題名 ブロイラーの産肉能力向上試験及び飼養衛生管理基準の習得について

2. 目的

1) プロジェクト I

ブロイラーの産肉能力は、飛躍的に向上してきたと聞き、実際にブロイラーの飼育試験を行うとともに過去のデータと併せ、養鶏農家の新たな飼養指針の導入となるか検証し、畜産農家の収益向上のとなる指針の実用化を図る。

2) プロジェクト II

私は養鶏業界への就職を希望しているが、ブロイラーに関する知識が不足していると思う。そこで畜産研究課で周年を通じて飼育管理を学び家禽飼養衛生管理の課題及び問題点を検証していく。

3. 方法

1) 試験期間：

(1) プロジェクト I 肉用鶏試験：2020年9月9日から10月21日（42日間）

(2) プロジェクト II 飼養衛生管理基準の習得：2019年10月から2020年12月

2) 試験場所：徳島県立農林水産総合技術支援センター 畜産研究課

3) 調査項目：

(1) プロジェクト I：鶏舎環境、育成率、発育体重、飼料摂取量、飼料要求率、屠体成績、
経済的試算及び過去のデータとの比較

(2) プロジェクト II：飼育管理の習得、飼養衛生管理基準の習得

4. 結果の概要

1) プロジェクト I

(1) 発育体重：順調な体重増加が確認された。過去との比較では出荷体重の目安である 3000 g 前後に達する出荷日齢が短縮された。

(2) 飼料要求率：過去のデータと比べ良い結果となった。

(3) 屠体成績：むね肉歩留は年々増加し、もも肉歩留は減少となったが、その後は、滑らかな増加となった。腹腔内脂肪歩留は年々減少傾向にあり、良い結果となった。

2) プロジェクト II

(1) 基本的な飼育管理には、一連の作業工程があり入雛から出荷までの飼育管理方法を習得した。特に、夏冬の季節は鶏を十分観察し、適正な温度管理が重要であった。

(2) 実際に飼養衛生管理基準にのっとり行動をし、目に見えない病原体を鶏舎に持ち込まないように、服装や消毒に気を付けた。飼養衛生管理基準を順守することにより、疾病の発生を防ぐことができた。

5. 考察

1) プロジェクト I

今回6週齢の出荷体重は約3100gにもなり6週齢より早い出荷が可能と考える。しかし、ここ数年増体は緩やかで、最高でも5週齢出荷までが限界ではないかと考える。出荷日齢が短縮することにより回転数も多くなり収益性が向上する。出荷日齢の短縮は畜産経営の飼養指針として有効であると考えられる。

2) プロジェクトII

農場の管理や鶏舎形態が農家によって異なり、また、飼料変更のタイミング、飲水の仕方が少し違ってても鶏には大きな影響を与える。その為、鶏が最大限のパフォーマンスを出せるよう生産者は考えて飼育管理をしなくてはいけないと思う。

飼養衛生管理基準にのっとり飼養衛生管理を行うことで、疾病を防ぐことが解った。

6. 主要な試験データ

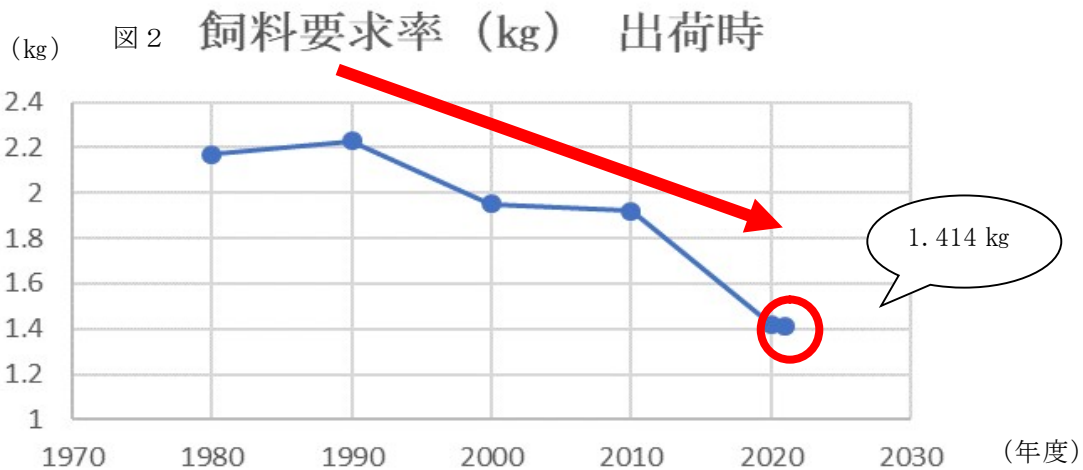
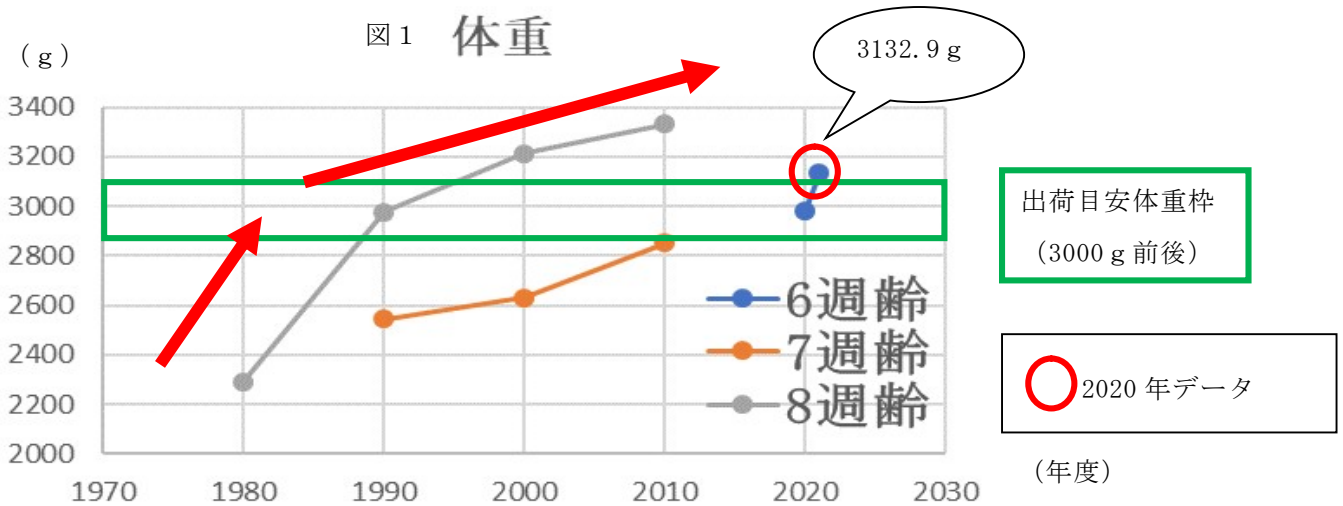


図3 1回転のサイクル

